



どうし ひてい 動詞の否定形「～ない」

どうし きほんこうぞう
P39 動詞の基本構造を
参照しながら進めてください。

この課では「食べない」「歌わない」「行かない」など、**非過去(現在や未来)の否定を表す動詞の形(否定形)**を学びます。

ポイント

1. 動詞の否定形「～ない」は、**語基A型**に、**否定の接辞 -(r)an¹** が付き、後ろに**語尾接辞**が付く。
2. 母音で終わる語基のとき**否定接辞は -ran**で、子音で終わる語基のとき**否定接辞は -an**。

1. 否定形

非過去の否定接辞 **-(r)an** は、**語基A型**に接続します。**語基が母音で終わる場合には -ran、語基が子音で終わる場合には -an** を付けます。なお、否定接辞の最後の「n」が子音の前に付くときには、発音できないのでこの **n** を消して考えてください。

例えば「呼ぶ」という動詞は、基本語根(語基A型)の **abi²** (母音終わり)に否定接辞 **-ran** と語尾接辞 **-N** (直説: 言い切る形) を付けて (abi-ran-N→) **abiran** 「呼ばない」となります。「待つ」という動詞は、基本語根の **mat** (子音終わり)に否定接辞 **-an** と語尾接辞 **-N** (直説) をつけて (mat-an-N→) **matan** 「待たない」となります。

	基本語根 (語基A型)	否定形
母音終わり	<i>abi</i> 「呼ぶ」	<i>abi-ra-N</i> 「呼ばない」
	<i>kuri</i> 「くれる・あげる」	<i>kuri-ra-N</i> 「くれない・あげない」
子音終わり	<i>hak</i> 「書く」	<i>hak-a-N</i> 「書かない」
	<i>mat</i> 「待つ」	<i>mat-a-N</i> 「待たない」

¹ -は接辞のマークです。

² 語根だけの形を、ななめ文字で表します。語根だけでは単語は成り立ちません。



発音してみよう!

ひてい どうし じっさい
否定形は使えるととても便利です。いろいろな動詞で、実際に発音してみましょう。

あびらん abi -ra -N 呼ぶ - 否定 - 直説 よ 「呼ばない」	なさん nas -a -N 産む - 否定 - 直説 「産まない」	しなん sin -a -N ³ 死ぬ - 否定 - 直説 「死なない」	はかん hak -a -N 書く - 否定 - 直説 「書かない」
またん mat -a -N 待つ - 否定 - 直説 「待たない」	ういがん uig -a -N 泳ぐ - 否定 - 直説 「泳がない」	かまん kam -a -N 食べる - 否定 - 直説 「食べない」	あしばん asib -a -N 遊ぶ - 否定 - 直説 「遊ばない」

3 「しにゃん」という地域もあるようです。

練習問題

どうし ひてい
次の動詞の否定形を予想して書いてみましょう。

- (1) **nibu** 「眠る」 → () 「眠らない」
-
- (2) **furus** 「殺す」 → () 「殺さない」
-
- (3) **ak** 「歩く」 → () 「歩かない」
-
- (4) **tat** 「立つ」 → () 「立たない」
-
- (5) **fug**⁴ 「(船を)こぐ」 → () 「(船を)こがない」
-
- (6) **num** 「飲む」 → () 「飲まない」
-
- (7) **tub** 「飛ぶ」 → () 「飛ばない」
-

4 fuig, fuugという地域もあるようです。





ひかて ひていせつじ りかい
非過去の否定接辞を (r)a ではなく (r)an と考えると、後ろに「テ形⁵」が来た時の変化を理解するのに便利です。(1)の文を見てください。

(1) あま あびらじ あちゃ あびたん
母 呼ばないで 父 呼んだ
よ よ
「母を呼ばないで父を呼んだ」

(1)に出てくる「あびらじ(呼ばないで)」は、「呼ぶ」の基本語根の **abi** に否定接辞 **-ran**、テ形の **-i** が組み合わさってできています。

abi -ran - i
呼ぶ - 否定 - テ形

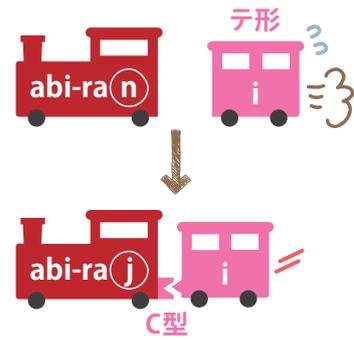
このままだと「あびらに」になってしまいますが、ポイントは、3-11「テ形」で学ぶように「テ形は語基C型に付く」ということです。

表1を見てください。-i (テ形) がくつつく語基 **abiran** のC型はどんな形でしょうか？

表1. 語基の末尾音の変化 (3-5「動詞の基本構造」より)

語基の末尾	① 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
語基A (基本形)	母音	s	k	t	g	n	m	b
語基B	母音	s	c	c	z	n	m	b
語基C	母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

abiran は n 終わりの語基なので⑥を見ます。すると、語基C型は j 終わりの形であることが分かります。そのため、-i (テ形) の前の語基は abiran → abiraj と変わり、abiraj-i となるのです。



5 日本語で「食べて、ねて、起きて…」のように、動作が順番に起きていくことを表したり、文をつなげていく動詞の形を「テ形」と呼んでいます。

